

未来への 遺産

VOL.68



1000年前の鎌(右)と鋤先もしくは鍬先とみられる鉄製品

古代人の たいせつな農具

今でこそ、畑を耕すのは耕運機、稲を刈るのは稲刈り機やコンバインと便利な時代になったが、いまだ鎌や鋤・鍬は、農業には欠かせない道具である。

昭和60年代、小田井の田んぼの下から、およそ1000年前の奈良・平安時代のムラが発掘された。鑄師屋遺跡群と呼ばれたその場所には、数百軒にもおよぶ住居跡が眠っていた。その住居跡のなかから、鎌や鋤・鍬の鉄製の刃の部分が発見されたのである。

1000年もの時を経て出土した鉄製の農具は、かなりサビが進行していたが、形は損なわれていなかった。かつて御代田に住んでいた農民が、この鉄製品を使って大地を耕していた重要な証である。当時においては、鉄製品はかなり貴重なものであり、大切に用いられ、保管されたのだろう。

写真の鉄製品には光沢があるが、サビの進行を止め、永年に残るよう保存処理が施してある。写真左の鋤鍬先には、U字形の部分に板がはめられ、柄がつけられたものとみられる。



御代田の奈良・平安時代の竪穴住居

パネル企画展 “地球温暖化を考える”

地球温暖化を考えるパネル展です。ご覧ください。入場無料 ■12月14日(金)~12月24日(月)

御代田町の人口(11月1日現在)

●人口 14,305人(先月比-5) 男 7,165人 女 7,140人
●世帯数 5,589世帯(先月比-2) ●外国人登録者数 811人

みよた広報 やまゆり ●発行/御代田町 〒389-0292 長野県北佐久郡御代田町大字御代田2464-2 ☎0267-32-3111